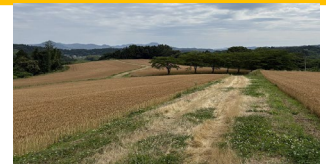


とうぎた麦生産組合（福島県二本松市）

組織の概要

- 除染廃棄物撤去後の営農再開に伴い、地元農業者により、R4年に設立。
- 構成農家 5戸



【収穫期の小麦ほ場】

生産概要

- 【作付面積（R7年）】小麦：6.4ha（品種：さとのそら）
- R6年産より「きぬあずま」から追肥重点型の「さとのそら」へ品種転換
- 高品質・低コスト化を図るためカントリーエレベーターを利用



【ボトムプラウによる麦程のすき込み】

取組のポイント

<スマート施肥機による収量・品質の向上>

- xarvio（ザルビオ）フィールドマネージャー（衛星画像×AI分析による最先端の栽培管理支援システム）を活用し、収集したほ場の地力や麦の生育情報に基づき可変施肥マップを作成。
- 肥料の情報を登録し可変施肥データを作成し、補助事業により導入したワイドスプレッダーにデータを読み込ませることで散布量・散布幅を自動で調整しながら追肥を実施。



【ワイドスプレッダーによる可変施肥】

<ケンブリッジローラーによる発芽・生育の均一化>

- ドリル播種後、補助事業により導入したケンブリッジローラーにより鎮圧することで発芽・苗立ちの向上を図り、初期生育を均一化。
- ケンブリッジローラーは麦踏みにも活用し、分けつ促進・根張り向上による穂ぞろいを均一化。



【ケンブリッジローラーによる麦踏み】

取組成果

<単収向上>

- R7年の結果として、可変施肥、鎮圧、踏圧により事業実施前（R5）と比較して**単収が69%向上**。

<等級・ランク区分向上>

	R5	R6
1等比率	0%	18.8%
ランク区分	Bランク	Aランク

<省力化による規模拡大>

- スマート施肥機を導入したことにより、事業実施前と比較して**施肥作業時間が73%削減（R6）**。**身体的な負担を軽減**することができ、更に規模拡大に結び付いた。【作付面積】R7年産 6.4ha

